カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

教皇さまの意向

・世界
私たちが環境に配慮した持続可能な生活を選択し、これに熱心に取り組む若者たちと喜びを共にすることができるように

・日本
すべてのいのちが尊重される社会の実現を目指していくことができるように

世界代表司教会議 ―シノドス― 第16回通常総会に向けて

今年9月から教区で準備始まる

第2バチカン公会議（1962～1965年）の教えの実施を推進すると同時に新しい課題に対応するために、1967年から世界代表司教会議（シノドス）が3年に1回ほどのペースで行われてきました。

次回の第16回総会は、「共に歩む教会のために―交わりと参加と宣教」（仮訳）というテーマのもと、2023年10月に行われます。これまでは、教皇様が決定したテーマについての各司教協議会の意見をもとにシノドスが開かれました。今回は、これまでと違って、教皇様が掲げたテーマについて、全世界の司教だけでなく、信徒・修道者・司祭の意見を可能な限り聴取したいということで、まず教区代表者会議（教区シノドス）を開催し、その成果を司教協議会がまとめて、来年2022年4月までに教皇庁シノドス事務局に提出するよう求められています。

教皇様は、全教会の声を集めて、その中から今後の教会のあり方と進み方を見定め、全教会が一丸となってそれを実施していきたいという意気込みを持っておられると感じます。わたしたちは、6年前に最初の教区代表者会議を経験していますが、今回は非常に限られた期間で会議をしなければなりません。9月になれば、シノドス事務局から質問や今後の日程などが知らされるはずですので、それをもとに教区でシノドスを開催します。

なお、開会式が教皇司式で今年10月9～10日に、全世界の教区で同17日に行われます。

次回のシノドスのための日本司教協議会代表は菊地 功大司教様です。長崎教区の窓口は中濱敬司本部事務局長に務めていただきます。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

大司教　髙見三明

シノドス開催までのタイムスケジュール

2021年	9月★	準備文書＋手引書
	10月9、10日と17日★	ローマと各教区におけるシノドス期間の開幕式典
2022年	4月	各東方典礼教会と各国司教協議会シノドスによるまとめ
	9月	討議要綱～その1
2023年	3月まで	大陸／地域での教会会議（司教協議会連盟などによるシノドス前国際会議）
	3月	各集いからの七つの最終文書
	6月	討議要綱～その2
	10月	最終文書、世界代表司教会議

★は教区での対応が特にかかわり深い

8月、平和を願い 祈りささげる

駐日教皇庁大使と共に浦上教会でミサ

昨年から続く新型コロナウイルスの影響により、長崎大司教区が主催する8月9日の平和祈願祭は昨年同様、今年も中止となったが、長崎中地区を中心とする各小教区ではそれぞれにミサや祈りがささげられた。

8月9日（月）浦上教会では、小教区主催の平和祈願ミサが行われた。ミサに先立ち18時、被爆マリア像と被爆十字架が奉納され、祭壇の両脇に据えられた。続いて聖堂前方のスクリーンに、教皇フランシスコが来崎時、爆心地公園で核兵器に関するメッセージを述べた際の映像が映し出された。その後、小学生の子どもたちによる紙芝居の朗読があった。紙芝居は、今年4月に93歳で亡くなった小崎登明修道士（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）の被爆体験を描いた『原爆を見た17歳の夏』。皆、真剣な表情で視聴した。

そしてロザリオを一連唱えた後、18時半からミサが始まった。髙見三明大司教が主司式をし、今年7月に来日し着任したばかりの新駐日教皇庁大使レオ・ボッカルディ大司教と参事官のヴェチェスラヴ・トゥミル神父、酒井俊弘補佐司教（大阪教区）、中村倫明補佐司教、6人の司祭団が共同司式を務めた。

ボッカルディ大司教の説教は、中村司教が日本語で代読した。「今日という悲しい記念の日は、すべての善意の人々と私たちキリスト者に、平和に向けて献身的に努力するよう呼び掛けます。（中略）平和のために執拗に祈り、戦争をよしとせず、争いを終わらせるために信仰の柔和な力をもって行動することが、すべての信徒にとって課題であり、義務なのです」

ミサの終わりに教皇大使を歓迎するささやかな式が行われた。大使は、「（ここ数日間）長崎の数々の名所を訪ねながら私の心には福音のたとえ話が思い浮かびました。『天の国は畑に隠されている宝のようなものである』長崎大司教区は大きな宝物が隠されている畑のようです」と、信仰や殉教の歴史を宝にたとえ、それらは古く過ぎ去ったものではなく今の時代においての宝でもあるとした。また、原爆を体験した長崎には世界に向かって平和を叫ぶ権利が与えられているとの思いも表した。被爆76年にあたり、平和の実現への思いを新たに皆で祈りをささげた。

9月1日～10月4日 すべてのいのちを守るための月間

2019年の教皇フランシスコの訪日に応えて、日本の司教団は昨年、毎年9月1日から10月4日までを「すべてのいのちを守るための月間」と定めた。

昨年5月9日、月間設置にあたり司教団は、教皇が定めた「ラウダート・シ週間」（2020年5月16日～5月24日）と、世界中に及ぶ新型コロナウイルスの多大な影響のただ中にあって、「一人ひとりが感染防止のための努力を維持するとともに、社会活動が制限されるなか経済的にも精神的にも困窮している人々への支援を行い、またできる範囲で環境保護のための運動も展開していきたい」とのメッセージを出した。

今年この月間を迎えるにあたり、日本カトリック司教協議会会長の髙見三明大司教は8月6日、談話「神の住まい、地球共同体を一新しよう」とカテケジス「環境問題と福音化」を発表した。大司教は談話の中で、月間に際し次のような3つの具体的行動を提案している。

昨年の海岸清掃の様子（月間にあたり9月13日　田平教会）

▼教皇回勅『ラウダート・シ』と『兄弟の皆さん』を丁寧に読み、互いに学び合う▼『ラウダート・シ』の目標に向かう7年間のプロジェクト「ラウダート・シ・アクション・プラットフォーム」について学ぶ▼よりシンプルなライフスタイルを日々目指す。（国連の＊SDGs（エスディージーズ）参照）

全文は、カトリック中央協議会ウェブサイトから読むことができる。

＊持続可能な開発目標。Sustainable Development Goals

ヨゼフ 三村誠一 神父 帰天

7月16日午前2時、骨髄異形成症候群のため出口外科医院で逝去。84歳。

1936年10月23日愛知県岡崎市生まれ。豊橋教会で受洗。植松教会出身。63年3月6日植松教会で司祭叙階。同年4月大司教区補佐書記、64年三ツ山主任、66年飽ノ浦助任、68年9月フィリピン・東アジア司牧神学研究所留学、69年4月浦上助任。その後、同年12月八幡町、73年滑石、81年植松、83年飽ノ浦、97年浦上、2002年相浦の各教会で主任を務め、08年から大山教会に主任として赴任していた。

通夜は7月18日浦上教会信徒会館で中村倫明司教の司式、葬儀・告別式は19日同教会聖堂で髙見三明大司教の司式により行われた。通夜の中で、かつて飽ノ浦の助任を務めた中村 満師が「（主任だった）三村神父様が私を教区司祭の一人として平等に受け入れ、接してくれた。牧者として羊のために主任も助任も関係なく共に働くという姿勢を見せてくださった」と振り返り、感謝の思いを述べた。葬儀では、一つ後輩にあたる小島 栄師が、共に過ごした大神学校時代のエピソードを織り交ぜて語り、気負いなく常に「待つ姿勢」「そばにいる姿勢」で司牧にあたり、生涯をささげ尽くした三村師に向けて「心から拍手をもってお送りしたい」と、永遠の安息を願った。

小教区での司牧とともに特別顧問など教区においてさまざまに働き、約28年間はクルシリヨの指導司祭を務めた。誰にでも隔てなく気さくに声をかけ、多くの人々と交わり、愛され慕われた。1969年から81年まで本紙『カトリック教報』の編集長。81年教皇ヨハネ・パウロ2世来日の際は長崎での報道対応に奔走した。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭ヨゼフ三村誠一神父の逝去につきましては早速、ご丁重なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のためにお祈りいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

一々拝眉のうえ御礼申し上げるべきところ、紙上をもって代えさせていただきます。

二〇二一年七月

カトリック長崎大司教区
大司教　髙見三明

人事異動・任命

（　）内は兼務

▼教区（7月20日着任）
山内　啓輔師　大山小教区協力司祭
（教区会計補佐、中町小教区協力司祭）

ほしかげ

コロナについて様々な情報が蔓延っている今の世にあって、信頼できる確かな情報が何かを識別することは難しいことです。その難しさの中で、厚生労働省が発表しているコロナ関連の資料を見ていますと、「あれっ？」と気がついたことがありました▲それは、この原稿を書いている8月5日時点で、日本国内の未成年者のコロナによる死亡者と重症者の数が、0と記されていることです。コロナが国内で発生してから一年半も経つのにです。赤ちゃんや子どもたち、中高生がコロナでは一人も亡くなっておらず重症者もいないという事実は、驚きと同時にうれしい気づきでした。今後も子どもたちの死者数と重症者数が、毎日ゼロ更新されますよう願わずにはいられません▲他方、カリタスジャパンの記事によりますと、子どもたちや青年たちの自死者の数がコロナ禍前に比べて確実に増えていることが分かりました。閉塞感の長期化により、子どもたちの居場所が限定され、親の休業・失業による家族のストレスなどが、精神的に家族を特に子どもたちを追い込んでいるようです。コロナではまだ誰も死んでない子どもたちが、自死してしまうのはたいへん辛いことです▲「イエスは幼子たちを抱き寄せ、彼らの上に両手を置いて祝福された。」イエスさまが子どもたちを守り強めてくださいますようお祈りください！　（小）

「…しかし 長崎の教会は死ぬことはありませんでした」　ヨハネ・パウロ2世（1981年）

わたしたちは何を目指すのか⑧

信仰生活における三位一体の神

福岡カトリック神学院　熊川 幸徳

ラーナーの三位一体論

ドイツ人神学者でイエズス会士でもあったカール・ラーナー（1904～1984）に『三位一体に関する考察』という著作があります。その冒頭部分に次のような言葉があります。少し長い引用になりますが、おゆるしください。

「今日においては、いわゆる霊的書物の中でそこかしこに、キリスト教の中心である三位一体の神秘とキリスト教的な諸信心をもっと明確に、もっと生き生きとした形で結び合わせようとする努力がなされていることに気付く。（中略）にもかかわらず、次のことを見過ごすことはできない。すなわち、キリスト者は三位一体への正統的な信仰告白を表明しながらも、実際の信仰生活の中では、ほとんど*『単性論者』でしかない、ということである。たとえ三位一体論を間違ったものとして消去したとしても、霊的書物の大部分は、そのまま変わらずに存続しうるだろうとさえ言ってよい」（百瀬文晃訳『三位一体に関する考察』、神学ダイジェスト57）。

*註・「単性論者」はモノテイストの訳だが、神理解のうちに三位のペルソナを含めないという意味での「一神教徒」を指すと思われる。

大学でのゼミの時間

この文に最初に触れたのは、留学中に参加した三位一体についてのゼミナールの時間でした。当初、ラーナーの考えが理解できず（今でも理解できていませんが…）、衝撃を覚えました。ラーナーほどの神学者がこんなことを言うとは…。しかし、『三位一体に関する考察』を最後まで読むと、ラーナーの意図は次第に明確になっていきます。すなわち、ラーナーは信仰生活から遊離してしまっているような印象を与えかねない三位一体論を、もう一度「キリスト者の霊性」という観点から考察しなおしたらどうだろうかと提案しているのです。ラーナーはそのための鍵概念として「受肉の神秘」を取り上げます。そうして、後に有名になった「経綸の三位一体は内在の三位一体であり、逆もまた真である」という命題を提示します。この命題は、彼以降の神学者に多くの影響を与え、ゼミナールの中でも活発な議論がなされもしました。しかし、正直に言うと、言葉の問題もあり、また話の内容そのものが難解すぎて問題の核心部分を十分理解するまでには至りませんでした。ただ、ラーナーの言う「三位一体論と霊性の遊離の問題」は大事なテーマとして、考え続けようと思いました。

キリスト者の霊性の中心

私たちの信じている神様は、三位一体の神と呼ばれます。三位一体とは、ここで改めて言うことではありませんが、父と子と聖霊という、ペルソナとしてはお三方であられるが、三人の神様ではなく、神としては唯一の神であられることを意味します。これは人間の理解を超えているので神秘と呼ばれます。ラーナーの言うところの「遊離」が生じるのは、恐らくこの神秘の理解の仕方に原因があるのではないかと思われます。神秘とは確かに「分からないこと」なのですが、「分からないから放っておくこと」とは違います。分からないままの神を、生活の中心に置くことなどできるはずがありません。それによって生じるのは「遊離」どころか、「分断」ないしは「断絶」です。

神秘とは、人が避けて通ることのできない問い

神秘とは「分からないから放っておくこと」とは正反対で、むしろ「かかわり続ける歩みを前提とした、人が避けて通ることのできない問い」のことです。こうした類の「問い」ないしは「関係」が、私たちを取り巻く日常には数多く存在します。例えば、社会生活は、夫婦や親子、近隣の人々、友人や職場の人たちなど、多くの避けることのできない人間関係によって成り立っています。時折、長年一緒にいながら相手のことがよく分からないと感じることもあるでしょう。しかし、理解の浅深がどうであれ、関係は続いていきます。そして、かかわり続けていると、ある日突然「あ、こういう人だったのか」と思わぬ発見があってうれしくなる時があります。

三位一体の神を生活の中心に置くという意味も、こうした「かかわり続ける歩み」を前提としているはずです。父と子と聖霊の神が私たちに存在を与え、生かし、愛しておられる現実は神秘という以外に呼びようがありません。一方で、苦しみの体験が私たちの神理解をさらに難しいものにすることもあります。苦悩の中で私たちは「神様のお考えがよく分からない」と心乱すときもあるからです。神秘の意味は、苦しみの中でいよいよ際立つことになります。

なにごとのおはしますかは　知らねども

愛されている予感にせよ、苦しみの体験にせよ、大切なことは私たちがいつも神様とかかわりながら生きているという事実です。神とともに生きるとは、別の言い方をすれば、問いを抱えながら生きることでもあります。こうした生き方は、一般にはあまり歓迎されないかもしれません。オード・カゼール（1886～1948、ドイツ人・ベネディクト会士）の言う「神秘喪失の時代」を生きる者にとって、はるかに魅力的なのは、問いよりも合理的な答えだからです。今や「答え」はどこにいても入手可能となり、神秘が存在する余地などなさそうです。しかし、現実の世界がたとえカゼールの言う通りであったとしても、私が悲観的な見方に陥らないのは、人間のうちに自然本性的に備わっている神秘に対する感覚を信じているからです。西行（1118～1190）の言葉を思い出します。「なにごとのおはしますかは知らねども　かたじけなさに涙こぼるる」。これは西行が伊勢神宮を参拝した時に詠んだ歌といわれています。表現の仕方に違いはあっても、こうした感覚は誰もが有しており、決して「喪失」したのではないはずです。

科学万能の時代に神秘の重要性を強調して生きるなど、無意味で愚かなことだと考える人もいらっしゃるでしょう。しかし、神秘に場所を与えることが神に場所を与えて生きることであり、神に場所を与えるとは人間が自己の成立根拠に立ち返って生きることを意味する、と私は考えています。神とともに生きるキリスト者の証しは、神秘に対する感覚に人々がもう一度目覚めるという意味においても、今後ますます重要なものになってくるのではないでしょうか。

神は愛

三位一体の神秘について述べるつもりでしたが、少し横道にそれてしまったようです。話を再び三位一体の神に戻しましょう。私はもともと難しい話が苦手です。それで、これから先は難しい話を横において、「神は愛である」（Ⅰヨハ4・16）という聖書の言葉を手掛かりに、三位一体の神について考えることにいたします。

父は労働を通して

人間の親が自分の子どもを愛するように、私たち人類の親である神様も、私たちを愛しておられます。では神様は、一体どのような方法で人間を愛するのでしょうか。信仰宣言のはじめに次のような言葉があります。「天地の創造主、全能の父である神を信じます。」

天地創造は父なる神の業です。父である神様は、人間が安心して平和に暮らしていけるように、世界を創り、環境を整え、必要な水や食物を備えてくださいました。人間の親も仕事を通して子どもを愛します。自分の子どもや家族を養うために、辛い仕事でも頑張ります。そういう愛の形があります。労働を通して子どもを愛する。このような愛は、「御父の愛」と呼ぶにふさわしい愛です。

子は言葉を通して

御子は御父の言葉、そしてキリストは受肉した神のロゴスです。少し難しいところですが、言葉（ロゴス）であることが、御子である神様の本質です。すなわち、神様は言葉を通して人間を愛そうとされたということです。人間の親も言葉で子どもを愛します。子どもがまだ小さければ、「おりこうさんやったね」「ようがんばったね」などと、親は子どもに言葉をかけます。当然、時には叱ることもあります。「なんぼしよっとか」「ぐずぐずすんな」私も小さい頃はよく父に叱られたものです。しかし、親の言葉がどんなに厳しくとも、愛情を持って叱れば、子どもにはちゃんと伝わります。親の真剣なひとことで、子どもは目を覚ますこともあります。あるいは、弱っていた心が急に元気になって、また頑張ってみようという気持ちになるときもあります。言葉を通じて子どもに愛情が伝わっていく。こうした愛の形は、三位一体においては、御子がその役割を担っているということができます。

聖霊は祈りを通して

最後に、聖霊についてですが、これについても、人間の親と子の例で考えてみましょう。親は労働を通して、また言葉を通して子どもを愛しますが、でもそれだけが親の愛の全てではありません。子どもの幸せを願って祈る親の姿があります。子どもが決して知ることのない、親の願い、親の祈りがあります。でも、子どもはすぐに言います。「知ってるよ。親が自分を愛していることくらい分かっているよ」と。私も以前はそうでした。親の気持ちを分かっていたつもりでいました。でも、この年齢になってみて思うのは、自分が分かっていたと思い込んでいたのは、実はほんの一部のことであったということです。子どもは親の愛の全てを知ることはできません。自分のためにどんなに祈ってくれていたか、その全部を知ることなど到底できることではありません。親は死んだ後も天国で子どものために祈ります。

こうした親の思いは目には見えません。そういう目に見えない部分とでもいうのでしょうか、子どもが知り得ない親の愛の広がり、そのことを私たちは、例えば「親の霊的な愛」と呼ぶこともできるでしょう。そして、三位一体の中でそうした役割を果たすペルソナがいらっしゃるとすれば、聖霊こそがその役割を担うにふさわしい方であると言えます。

分かつことのできないひとつの愛

御父は労働を通して、御子は言葉を通して、聖霊は目に見えない祈りを通して人間を愛します。そして、これら三様の愛、「労働」「言葉」「祈り」は、決してばらばらの三つの愛ではなく、分かつことのできない「ひとつの愛」です。三位一体の神様は、人間の理解を超えた神秘ではありますが、その神秘の奥にあるのは、人間に対する深くて広い愛情であるということができます。こうした父と子と聖霊の愛が、日常の中で生き生きと実感を持って感じられるようになる時、私たちの信仰生活はおのずと三位一体の神を中心としたものになっていくのではないでしょうか。

新教皇庁大使の長崎訪問

7月16日に日本に到着した新駐日教皇庁大使レオ・ボッカルディ大司教は、コロナウイルス感染対策としての待機期間を経て8月に広島と長崎を訪れ、平和行事などに参加した。長崎には8月6日から10日まで滞在した。

教皇大使は6日（金）17時過ぎに大司教館に到着（写真）。歓迎する信者らに終始気さくな笑顔で応え、「この数日間、皆さんと一緒に祈り、長崎での時間を過ごしていきたい」などと語り掛けた。

7日（土）は浦上教会、西坂・日本二十六聖人記念館、大浦天主堂、原爆資料館などを訪れた。8日（日）は聖コルベ記念館とお告げのマリア修道会本部を訪問。夕方、長崎市主催の献花式に参加。長崎県宗教者懇話会主催の原爆殉難者慰霊祭には雨天のため参加を断念。9日（月）午前中は長崎市主催の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典へ。午後6時からは浦上小教区主催の平和祈願ミサに参加し（1面に関連記事）、忙しい日程を過ごしながらもご満足な様子で10日（火）午前中に長崎を後にした。

長崎平和宣言

小崎修道士の手記引用

8月9日（月）、平和公園で長崎市主催の被爆76周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われた。午前11時2分の黙とう後、長崎平和宣言の中で田上富久市長は冒頭、今年4月に逝去したコンベンツアル聖フランシスコ修道会の小崎登明（本名・田川幸一）修道士の手記を引用し、平和への願いと誓いを込めて語った。

以下、宣言の抜粋。

「今年、一人のカトリック修道士が亡くなりました。『アウシュビッツの聖者』と呼ばれたコルベ神父を生涯慕い続けた小崎登明さん。93歳でその生涯を閉じる直前まで被爆体験を語り続けた彼は、手記にこう書き残しました。

世界の各国が、こぞって、核兵器を完全に『廃絶』しなければ、地球に平和は来ない。核兵器は、普通のバクダンでは無いのだ。放射能が持つ恐怖は、体験した者でなければ分からない。このバクダンで、沢山の人が、親が、子が、愛する人が殺されたのだ。このバクダンを二度と、繰り返させないためには、『ダメだ、ダメだ』と言い続ける。核廃絶を叫び続ける。原爆の地獄を生き延びた私たちは、核兵器の無い平和を確認してから、死にたい。…」

これに続く宣言の中で田上市長は、核兵器禁止条約への一日も早い署名、批准を日本政府に求めるとともに、平和の実現に向けて努力する決意を述べた。（写真はインターネット中継から）

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

ライムンド 田中健一司教 帰天

（京都教区名誉司教）

京都教区名誉司教ライムンド田中健一司教は、7月29日午後4時58分、愛媛県宇和島市内の病院で誤嚥性肺炎のために逝去した。93歳。

1927年8月31日宇和島市生まれ。51年12月21日高松教区で司祭叙階。海外留学を経て、58年4月から大阪教区で司牧。64年4月高松教区で司牧。76年9月23日京都教区司教に叙階。日本カトリック司教協議会で諸宗教対話、交流、協力を担当した。97年6月15日に引退、京都教区名誉司教となる。

葬儀は大塚喜直司教の司式により、8月1日宇和島教会で、新型コロナウイルス影響下であることに配慮し、密葬で行われた。後日、司祭団のみで教区葬を行う予定。

熱～い夏！子どもたち楽しむ
キャンプやスポーツ交流会

浦上教会前で記念撮影。長崎カトリック神学院では皆で祈りや夕食作りも。

キャンプ―長崎

教区召命委員会（辻原達也委員長）は7月26～27日にかけて「第7回召命親子キャンプ」を開催した。新型コロナウイルスによる影響のため長崎地区を主に規模を縮小し、感染リスクに十分配慮しながら行った。参加者は子ども9人とその保護者。司祭やシスターと触れ合いながら、神様からの呼び掛けに耳を傾ける機会となった。

講話を担当した中村倫明補佐司教は「イエス様こそスーパーマン。そのお手伝いを期待しておられる」と、ユニークな衣装のまま真剣に呼び掛け、参加者は楽しく聴き入った。子どもたちは食材の買い出しから夕食作り、またスポーツや祈りで交流を深め、翌日は伊王島に移動し海水浴も楽しんだ。

関係者は「開催も危ぶまれたが、カトリックセンターとカトリック神学院のご配慮をいただき無事終了できたことを心から感謝しています。長崎教区でも召命が著しく減少した今、歩みを止めず、神様の呼び掛けにこたえる子どもたちを今後も支えていきたい」と語った。

スポーツ交流会―下五島

7月22日（木）、下五島地区・子どもスポーツ交流会が五島市民体育館で行われた。

夏休みを迎えた教会学校の子どもたちはこれまで合同黙想会に参加していたが、新型コロナウイルスによる影響のために昨年と今年の黙想会が中止となり、地区全体で集まる機会を失っていた。今回の交流会は、その機会を提供するため地区司祭団が企画し主催した行事。感染対策として対象を小学4年生から小学6年生までに限定して開催された。

参加者は子ども、シスター、司祭団、スタッフを含め総勢約50人。午前中はシスター、司祭団の自己紹介や「じゃんけん列車」「おたまリレー」などのレクリエーション、午後は子どもたちとシスター、司祭団が一緒にチームを組んでドッヂビーの試合をした。元気いっぱい、皆で楽しい時間を過ごした。

神学院一泊体験入学のお知らせ

今年も「神学院一泊体験入学」を実施する予定です。詳細については各小教区にお送りする「ご案内」「申込書」などをご確認ください。お申し込み、お待ちしています。

日にち　10月23日（土）～24日（日）
場　所　長崎カトリック神学院
対　象　小学5年生～高校生のカトリック男子
その他
■新型コロナウイルスの感染状況次第ではありますが、参加定員は設けない予定です。
■主任司祭を通してお申し込みください。

2021年度 第1回臨時司教総会
新しい「ミサの式次第」
来年待降節からの実施決定

7月12～15日、東京・日本カトリック会館で2021年度の第1回臨時司教総会が開かれ、14人の司教と2人の補佐司教（うち5人がリモート参加）、使徒座管理者の司祭らが参加し、男女修道会・宣教会の代表4人も出席した。

報告は次の通り。▼日本の教会として取り組んできた東日本大震災からの復興支援10年間の歩みについて、専門家の協力を得て評価を行い、報告書がまとまったことが紹介された▼今年11月に予定していた第25回日韓司教交流会は、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないため、延期になった。

また、日本の教会が申請していた『ローマ・ミサ典礼書』の「ミサの式次第と奉献文」ほか全4文書は、今年5月にバチカンの典礼秘跡省が認証。日本カトリック典礼委員会は、新しい式次第などの内容の周知や典礼書などの準備のために18カ月程度が必要だとの見込みを明らかにし、実施までの手順を説明した。今後、説明用の小冊子を作成した上で、今年10月から各教区や修道会での説明を順次行う予定。総会は提案された手順を承認し、2022年の待降節第1主日（11月27日）からの実施を決定した。

日本カトリック司教協議会の次期会長選挙が行われ、会長に菊地 功大司教（東京教区）、副会長に梅村昌弘司教（横浜教区）を選出した。任期は22年度定例司教総会（2月開催予定）開始時から25年度定例司教総会開始時まで。そして、次期常任司教委員会委員の選挙も行い、次期会長・副会長の他、前田万葉枢機卿（大阪教区）、松浦悟郎司教（名古屋教区）、勝谷太治司教（札幌教区）、ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区）、中野裕明司教（鹿児島教区）を選出した。

新型コロナウイルス感染症の流行で各小教区での献金が集まらないことを考慮し、各教区の中央協議会への教区分担金を、今年度に引き続き、22年度も50％減額することが承認された。

その他、日本の教会の環境問題への取り組みに関する分かち合いや、ハンセン病問題に関する冊子の勉強会が行われた。

訂正

〈長崎大司教区〉
教区報8月号2面「感謝・香典返し」の欄に大瀬良清香様と記載していましたが、正しくは「大瀬良清春様（大浦）故ヨゼフ大瀬良文男様」でした。訂正し、お詫び申し上げます。

〈二〇二一年度『カトリック教会祝日表』〉
37頁掲載の宝亀教会のファックス番号は、電話番号と同じ0950-28-0324です。

カリス通信 9月号
カトリック現金盗難補償制度のご紹介

カリスではカトリック教会の皆様を、現金・小切手類の盗難リスク等からお守りする「カトリック現金盗難補償制度」を運営しております。
教会活動においては、「教会にカギが掛かっている時間に空き巣に入られた」「火災発生により教会内に一時的に保管していた現金が机と共に燃えてしまった」「財務担当の方が銀行に教会のお金を預けるために自転車で走行中に現金が入ったカバンをひったくられた」といった保管中・輸送中のリスクが存在します。
「カトリック現金盗難補償制度」では、国内における「輸送中」ならびに特定した教会に「保管中」の現金・小切手類に、盗難・滅失、その他偶然な事故が発生したことによって生じた損害を補償いたします。「携行中」の置忘れや紛失、「保管中」に生じた紛失や原因不明の数量不足等は補償となりません。詳しくはカリスにお問い合わせください。

＜カトリック現金盗難補償制度の特長＞
(1)お申込み手続きが簡単です！　輸送の都度、保険を手配する必要がありません。
輸送・保管額が変動しても、支払限度額まで1年間補償します。

＜補償対象となる主な損害＞

(2)支払限度額は事故により保険金をお支払した後も削減されません。
(3)財産上の直接損害に加え、費用の損害についても保険金をお支払します。

＜保険の対象について＞
本制度で対象となる現金・小切手類は次のとおりです。ただし、家計用のものは除きます。
現金（他人から預かった現金、および外国通貨を含みます。）・小切手（作成前の小切手を除きます。）・郵便切手・収入印紙・商品券・図書カード（図書券を含みます。）・乗車券・入場券・クレジットカード売上伝票・金券およびクーポン券。
※上記に列挙された以外のもの（手形・株券等の有価証券やプリペイドカード等）は含まれません。

本制度の詳細やご不明点等につきましてはカリスまでご連絡をお願いいたします。

カトリック共済システム 有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
19-TC03966
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

パキスタン人のムジさん

洗礼の喜びを共に―

カトリックの信仰に導かれて

先日7月18日、特別な洗礼式で喜びを共にすることができました。

簡単にご紹介すれば、大村入国管理センターと大阪入国管理局も含め10年9カ月収容されていたパキスタン人のムジさん（フルネームは、カンニャジ・ムハマド・ムジブラさん）は、リーマンショックの影響とも合わさって不遇な流れで収容され、先週金曜（7月16日）に仮放免で出所しました。

大阪ではシスターの面会で聖書を分かち合い、こちら大村入管内でも必ず月1回の礼拝に参加され、カトリックの信仰にすごく導きを感じていた方です。彼は、難民として幼少の頃からシンガポールに逃れた折にもサレジオ修道会の施設にお世話になり、そちらの手配でイギリスに渡り、その後もカトリック関係者・修道会にお世話になりながら、大学で公認会計士と経営マネジメントの資格もとって、何カ国語か話すことができます。

洗礼式でのムジさん ＝水主町教会＝

十字架などの金属系のものは収容部屋に置くことができないので、聖母マリアがプリントされたTシャツを壁に張り、祈りつつ、彼は収容所の中でも希望を持って、神と出会っていたともいうくらいの信仰です。

ムジさんは洗礼式前に、水主町（教会）がサレジオ修道会の姉妹たちが奉仕している教会、と聞いてさらに導きを感じて感動していました。これからもご縁があることでしょう。そして洗礼式ではシスターズも喜びを共にすることができたというわけです。

柚之原寛史牧師、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の山口雅稔神父も関わり、洗礼名は「ヨセフ・パウロ・コルベ」を受け、その日のうちに大阪の知人のところへ旅立ちました。

これからもRHQ（アジア福祉教育財団 難民事業本部）と入管問題に著名な駒井知会弁護士、CTIC（カトリック東京国際センター）などとも連携して、日本の入管問題や自分の体験を世界にも発信していきたいとの志ももっています。

このようなカトリック信仰を尊く感じている外国人との関わりに教えられるものがあります。

日本カトリック難民移住移動者委員会
長崎管区代表　川口昭人
（水主町教会主任司祭）

ヨセフ年を生きる

フランシスコ教皇様は昨年12月8日無原罪の聖マリアの祭日から今年12月8日までをヨセフ年として過ごすように定められました。それによって、全世界の教会は心を一つにして聖ヨセフの取り次ぎを願って、信仰の道を歩んでいます。

聖ヨセフは聖書の中では聖母マリアが身ごもる場面でしか出てきませんが、私たちは聖ヨセフの偉大さを記念し、祈りの中で聖ヨセフの取り次ぎを願い、霊名として名づけるたくさんの信者さんがいらっしゃるわけです。フランシスコ教皇様は聖ヨセフを普遍教会の保護者とする宣言の150周年を記念して使徒的書簡「父の心で」を出されました。

使徒的書簡「父の心で」は7つに分けて聖ヨセフの心について述べています。

「愛される父」、「いつくしむ心の父」、「従順な心の父」、「受け入れる心の父」、「創造的な勇気をもつ父」、「労働者である父」、「影に見る父」以上の7つは聖ヨセフの尊い、私たちにとっても価値ある心のあり方です。

教会によって愛される父である聖ヨセフは特に3月（聖ヨセフの月）に記念され、祈祷書の中の聖ヨセフの取り次ぎを願う祈りによってすべての信者から愛されています。

いつくしむ心の聖ヨセフは私たちの祈りを聞き入れてくださる父です。また、聖書の中でマリアと同じように神の言葉に従順な人として描かれている聖ヨセフは、すべてを受け入れた方です。聖ヨセフは無から有を創造（create）したのではなく、新しいことを作り上げたのではなく、起源（genesis）、すなわち社会が急速に変化していく時代を生きている私たちに、私たちがいるべき起源はどこなのかご自分の勇気を通して教えてくださいます。

大工として労働者の一人であった聖ヨセフは現代社会問題の中、失われている人間の尊厳、社会の不条理、不正から私たちを守ってくださいます。聖ヨセフは沈黙という徳をもって、私たちを御父の影となって守ってくださいます。

コロナ感染拡大によって大きな変化がある今日ですが、私たちを近くで守ってくださる神と聖ヨセフに信頼し、もう一度力を絞って頑張って生きていきましょう。試練に揺れない心を与えてくださるように祈りましょう。

あがない主の保護者、おとめマリアの夫よ。神はあなたに御子をゆだね、マリアはあなたを信頼しキリストはあなたによって養われ、大人になりました。聖ヨセフよ、父親としての姿を私たちに示し、日々の歩みを導いてください。恵みといつくしみと勇気が与えられ、すべての悪から守られるようお祈りください。

みことばにふれて 183

ナム・シジン 神父

（テグ教区司祭、滑石教会）

新刊良書

★津和野・乙女峠の証し人

企画＝カトリック広島司教区列聖委員会

「世界難民移住移動者の日」は現在、9月最終日曜日に記念されています。今年は9月26日となっています。

『カトリック教会情報ハンドブック2021』によると、この日は「各小教区とカトリック施設が、国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と『ともに生きる』決意を新たにする日」とされています。

禁教令の中で自らの信仰を表明し、流配の後、キリストへの信仰ゆえにいのちを落とした浦上村のキリシタンたち。2019年2月5日に教皇庁列聖省から正式に列聖調査開始の許可を受けた「津和野・乙女峠の証し人」の横顔を紹介する。ドン・ボスコ社、税別100円。

★ロヨラの聖イグナチオ自叙伝

著＝聖イグナチオ・デ・ロヨラ／訳＝アントニオ・エバンヘリスタ／編＝李 聖一

4度の邦訳本である本書は、1966年にアントニオ・エバンヘリスタ神父が中心になって訳出した原稿が元になっている。イエズス会創立者聖イグナチオ・デ・ロヨラがパンプローナの戦いで負傷し、療養中に回心を体験してから500年を迎えた2021年、イグナチオの姿は、困難の中にも神は恵みの手を差し伸べられているということを、私たちにも気づかせてくれる。ドン・ボスコ社、税別700円。

短信

〈コロナ感染防止の対応〉

長崎教区は7月29日、新型コロナウイルス感染防止の対応として7月25日まで継続としていた「主日ミサの参加義務の免除」を8月29日まで延長すると通達した。

その後、長崎県では新規感染者が急増。8月17日には過去最多の104人となり、中村法道知事は19日臨時の記者会見で、8月19日から9月6日にかけて、県独自の感染段階を県下全域で「ステージ4」から「5」に引き上げ、県独自の「緊急事態宣言」を発令した。これを受け長崎教区は、教区内の全小教区に対し、8月21日（年間第21主日の前晩ミサ）から9月6日までの「主日・週日の公開ミサ中止」を決定、8月20日に伝えた。9月7日以降については、県内の動向を注視しながら判断する。

スペリア

濵元マツエ修道女

（純心聖母会）

7月12日逝去。85歳。平戸市生まれ。1961年初誓願。70年終生誓願。初誓願後から幼稚園教諭として、長崎・広島など同会の幼児教育の現場で、子どもたち、保護者、教会との関わりの中で31年間宣教に励んだ。

1990年に脳内出血で入院し、その後は体調を取り戻せず、会の事業所の事務の手伝いや、修道院の食事係で野菜を育てて食卓をにぎわせ姉妹たちを喜ばせるなどの奉仕をした。職場でも共同体でも常に温かい配慮があった。

2017年2月に再度入院し、少しずつ身体の機能が低下し、4年間はベッドに横たわったままの状態を余儀なくされた。しかしこの闘病生活を十字架上のキリストの苦しみに合わせて祈りのうちにささげ尽くした。

7月9日に容態が悪化し、12日午後2時53分、老衰のため姉妹たちに見守られながら静かに御父のみもとに召された。

パスカル

大川甚吉 神父

（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）

7月29日、東京都小金井市の桜町病院でS状結腸がんのため逝去。90歳。

1931年4月25日五島市生まれ。同日、堂崎教会で受洗。57年終生誓願。58年7月13日ローマで司祭叙階。

60年聖母の騎士修道院、聖母の騎士社。63年小長井修道院、聖母の騎士園。64年奄美、66年亀有の各修道院。67年湯江修道院、聖フランシスコ園職員。70年東長崎教会司牧。76年本河内主任。79年湯布修道院、82年湯江主任。85年東村山修道院。88年春日井主任。91年聖母の騎士修道院。93年ブラジル派遣。94年瀬戸主任。97年本河内助任。2001年那覇教区派遣（宮古平良主任）。02年本河内主任。05年湯布主任。18年東京・本部修道院。今年4月施設に入居し、7月に桜町病院に入院していた。

葬儀ミサ・告別式は7月31日、谷崎新一郎日本管区長の司式により東京・赤羽教会で行われた。

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ミカエル　溝口　晃
〒858−0926　佐世保市大潟町586
TEL（0956）47−4380

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL（095）844−4011
24時間営業　FAX（095）843−9896

教皇フランシスコ訪日公式記録集
2021年6月5日発売
2019年11月に実現した教皇フランシスコの訪日。興奮と感動と喜びに包まれた4日間を詳細に伝える唯一の公式記録集。貴重な写真500点以上とともに、講話のテキストもすべて収録。また、訪日決定に至るまでの経過や、各行事、各典礼の規模や人員などのデータも詳細に伝える。
著者　カトリック中央協議会出版部（編）
発行日　2021年6月10日
A4変型判上製・280頁
オールカラー
本体価格　4,500円（税込4,950円）
ISBN 978-4-87750-230-0

詳細は『記録集』特設サイトをご確認ください。
https://www.cbcj.info/popeinjapan2019book/